

城郭考古学から見た信長の城

講師：千田 嘉博先生（奈良大学 教授）

令和元年 12月7日（土） 於：草津市立市民交流プラザ

今回のテーマは「お城のはなし」ということで、2016年大河ドラマ「真田丸」の真田丸城郭考証を務め、今やお城についての著書やTV番組で大人気の城郭考古学者、千田 嘉博先生にご講演いただきました！より多くの方々にご参加いただけるよう、今回は草津市立市民交流プラザ・大会議室で開催しましたが、それでも当日は会場の席を埋め尽くすほどの大盛況となりました。



タイトルは「城郭考古学から見た信長の城」ということで、戦国時代に尾張から勢力を拡大し、天下統一の目前で討たれたカリスマ的存在、織田信長が築いた城について、考古学的見地からお話いただきました。

従来のやり方に縛られずに独自のやり方で物事を推し進める、革新的なイメージがある信長ですが、彼の城も革新的なものでした。桶狭間の戦いに勝利した信長は、自身の居城として初めて小牧山城を築きます。近年の発掘調査により、山上の主郭部分には石垣が多用されていたことが分かりました。現代ではお城といえば石垣のイメージがありますが、当時はまだお城に石垣を利用することが普及する前でしたので、これらの石垣から信長が立派な城を築こうとしていたことが分かりますね。

さらに、山上を主郭部分として自身の空間としたのに対し、山麓には家臣の屋敷を置き、各屋敷の区画として堀が築かれましたが、信長のいる山上側には堀が築かれませんでした。これらのことから、信長と家臣たちの上下関係を視覚化するとともに、家臣はいつでも信長から見られており、いつでも信長に攻めてこられるというプレッシャーを与えられていたと考えられるそうです。恐ろしい上司ですね！

その後、信長は勢力を広げるにつれて小牧山城から岐阜城、そして安土城を築き居城としました。岐阜城・安土城において、山上には信長、山麓に家臣という城の構造は引き継がれ、その序列の明確化はますます強みを帯びていきます。絶対権力者として君臨した信長は、安土城の完成からわずか3年後、本能寺の変で明智光秀に討たれます。

お話の中では、それぞれのお城の調査・整備についても触れられ、城郭考古学の現状や問題点等も教えて下さいました。先生は非常に楽しく軽快な語り口でお話し下さり、とても明るく楽しい雰囲気での講義となりました。今回の先生のお話をふまえて、信長のお城を初めとしたいろいろなお城を訪ね、当時のお城の姿や人々の思いに思いを馳せていただければと存じます。来年の大河ドラマも楽しみですね！！

（文章：草津宿街道交流館）